URP Osaka City University
Newsletter
Issue 47, May.2020
大阪市立大学 都市研究プラザ ニューズレター第 47 号 2020 年 5 月

「先端的都市研究拠点」事業総括国際シンポジウム
Osaka City University's "Platform for Leading-edge Urban Studies" Term-end International Symposium

2月15 日（土）～16日(日)に、本学高原記念館学友ホールにおいて、「先端的都市研究拠点」事業最終年度の締めくくりとして「大阪市立大学先端的都市研究拠点事業総括国際シンポジウム」および「第 2 回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会」が開催された。2006 年の設立以来、都市研究プラザ（URP）は、アジア諸都市をはじめとする世界をフィールドとし、文化創造と社会包摂に資する先端的都市論の構築に取り組んできた。その後、2014 年度には文部科学省・共同利用・共同研究拠点「先端的都市研究拠点」と認定され、2016 年度まで「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業～スタートアップ支援」に採択されたことから、国内外の研究機関と共に蓄積してきた研究・学術資源を一般社会と共有し、協力関係を深化させることで先端的都市研究をスケールアップする拠点として活動を展開してきた。こうした取り組みが評価され、本拠点は、「先端的都市研究拠点」として再認定された。

今回のシンポジウムでは、国内外の研究者および行政関係者らを招き、過去五年間の取り組みの総括と今後の展望の提示がなされた。まず 15 日には、「2019 年度第二回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会」が行われ、2 名の若手研究者が研究報告をした。その後、本拠点出身の研究者 2 名が、本拠点において研究をいかに発展させていったかを発表し、同志社大学の埋橋孝文教授は、子どもの貧困に関する特別講演を行った。

16 日の午前中の部では、櫻木弘之本学副学長の開会の挨拶に続き、阿部昌樹 URP 所長によって 5 年間の事業報告が行われた。また、文部科学省研究振興局学術機関の西井知紀課長からは、本事業の趣旨や各学術機関での進捗状況、URP に対する期待を述べていただいた。続いて、本拠点事業の一環である 5 件の共同研究プロジェクトの成果が報告された。午後の部では、台湾国立大学の Liling Huang 教授と香港城市大学の Ngai-ming Yip 教授が、それぞれ台湾の住宅法、香港の住宅問題について特別講演を行った。最後に、水内俊雄 URP 教授が日本における諸都市の人口変動について講演し、全泓奎 URP 副所長は、シンポジウムの総括として、URP における今後の活動の方向性と将来像を示した。新型肺炎の影響で参加者こそ少なかったが、興味深い発表と討論がなされた 2 日間であった。

■彌吉惠子（URP 特任助教）

On February 15-16, Osaka City University's "Platform for Leading-edge Urban Studies" Term-end International Symposium, and the 2nd Annual Workshop for URP (Young, Leading-edge Urban) Special Researchers were held at the Takahara Memorial Hall. This international symposium was organized to review the 5-year activities of URP and to show its future prospects with presentations by young researchers, research collaborators, and cooperating foreign academic organizations/government agencies. On the 15th, presentations by two Special Researchers (Young, Leading-edge Urban) , two former URP members and a special lecture by Prof. Takafumi Uzuhashi (Doshisha University) were held. On the 16th, an invited speech from the MEXT, 5 reports from collaborative research projects, and two invited special lectures by Prof. Liling Huang (National University of Taiwan) and Prof. Ngai-ming Yip (City University of Hong Kong) followed. Due to coronavirus impact, the number of participants was limited, but stimulating presentations and discussions took place.

2019 年度第 2 回
URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会
The 2nd Annual Workshop for URP Special Researchers (Young, Leading-edge Urban Studies)

2 月 15 日（土）、2019 年度第二回目となる、URP 先端都市特別研究員合評会が開催された。

合評会では、まず、湯山篤氏が、韓国、特にソウル市を事例とした路上生活者の推移と支援策、そして公的扶助制度についてこれまでの調査結果を報告した。さらに湯山氏は、日本の居住支援、生活困窮者や就労支援に関する研究事業にも参加し研究を進めており、日韓比較研究への展望についても発表した。次に松下茉那は、韓国の高齢者自殺予防対策に関して、行政機関と民間団体へのインタビュー調査を基に、地域社会において民間団体が実際に担っている役割と、既存の官民連携事業の課題点と改善策について報告した。

続いて、都市研究プラザ出身研究者である志賀信夫先生とヨハネス・キーナー先生による報告と都市研究プラザの連携研究者である埋橋孝文先生による講演が行われた。

志賀先生は、貧困の理論的研究と地方都市の子どもの貧困問題研究、そしてベーシックインカムに関する研究に関して、これまでの研究内容と今後の研究活動について述べた。ヨハネス・キーナー先生は、大阪市の北加賀谷での取り組みを事例として、住宅政策からみる都市再生におけるアートの役割について報告を行った。最後に、埋橋先生が、子どもの貧困をどう捉えるべきか、というテーマで、親の貧困問題、そこから影響を受ける子どもの貧困、そしてそれにより低下する自己肯定感について講演した。さらに、台湾と香港からお越しくださった HUANG Liling 先生、YIP Ngai-ming 先生、そして埋橋先生が、各報告者へコメントをしてくださった。

短い時間ではあったが、様々な分野の報告を聞くことで、新たな知見が得られ、大変有意義な時間となった。そして、先生方のコメントと質疑応答でのフロアからの質問は、報告者にとって、今一度、自身の研究課題について考え直すきっかけとなり、今後の研究活動への大きな励みとなった。

■松下茉那（URP 特別研究員〔若手･先端都市〕）

大阪市立大学「先端的都市研究拠点」事業総括シンポジウム プログラム

▼2020 年 2 月 15 日（土）
□開催挨拶
阿部昌樹（URP 所長）
□第 2 回 URP 特別研究員（若手・先端都市）合評会
・湯山篤：「都市研究プラザにおける研究活動の成果について」
・松下茉那：「韓国の高齢者自殺予防対策について－民間団体の役割を中心に」
□本拠点出身者研究者による報告／連携研究者による講演
・志賀信夫（県立広島大学）：
「都市研究プラザにおける研究活動の成果について」
・ヨハネス･キーナー（埼玉大学）：
「住宅政策の視野から見た地域再生においてのアートの役割 大阪市における賃貸住宅の事例から」
・埋橋孝文（同志社大学）：
「子どもの貧困をどう捉えるべきか」
□コメント
・Yip Ngai-ming（国立台湾大学）
・HUANG Liling City University of Hong Kong）

▼2020 年 2 月 16 日（日）
□開会挨拶
櫻木弘之（大阪市立大学副学長）
□事業成果報告
阿部昌樹（URP 所長）
□招待講演
西井知紀（文部科学省研究振興局学術機関課長）
□共同研究プロジェクトの成果報告
・岡本祥浩（中京大学）：
「経済・社会の構造変化における居住福祉政策の実践的共同研究」
・安田恵美（國學院大學）：
「ヴァルネラブルな刑務所出所者等の意思決定支援に関する研究－当事者参画による共生都市の創造にむけて－」
・矢野淳士（AKY インクルーシブコミュニティ研究所）：
「地域共同のまちづくりによる社会的不利地域の再生にむけたアクションリサーチ」
・網中孝幸（八尾市人権文化ふれあい部）：
「包摂都市にかかわる人材養成にむけて～市民・行政・大学が連携し、都市の未来を切り拓く～」
・ヨハネス･キーナー（埼玉大学）：
「東アジア先進都市における「サービスハブ」の空間的形成過程 大阪市西成区の住宅市場の事例から」
□海外招聘者特別講演
・HUANG Liling（国立台湾大学）：
「台灣的住宅法立法與修法內容之分析」：
・Yip Ngai-ming（City University of Hong Kong）：
「Struggle in an Unequal City – Housing Problem in Hong Kong」
□総括討論
・水内俊雄（URP 教授）
・全泓奎（URP 副所長）
□閉会挨拶

先端的都市特別研究員（若手）の研究について

Introduction of the URP Special Researchers (Young, Leading Edge Urban Studies)

都市研究プラザでは、従前より国際公募による若手研究者の育成につとめてきた。2020 年度からは 4 名の若手研究者が在籍している。その研究内容等について紹介する（順不同）。

■朱澤川

大阪市立大学文学研究科地理学専修・後期博士課程 1 年の朱澤川と申します。生まれも育ちも中国上海です。大学卒業後、上海のソフトウェア開発会社に就職しました。2015 年から和歌山大学教育学研究科修士課程において、居住者の年齢構成と居住環境から見る公営住宅団地の地域差を主な対象とした研究を行いました。2017 年日本から中国に一時帰国し、2019 年に大阪市立大学文学研究科博士後期課程に進学しました。現在、日本の大都市における外国人の定住化に伴う地域の変容と共生のまちづくりに関連する研究を行っています。日本各地に居住する外国人の地域的多様性に着目する時に、GIS 分析で大都市圏に居住する外国人の生態および地域の変容を明らかにする必要があります。これから URP 特別研究員として、日本大都市圏における外国人の定住化の進展や、外国人グループに向けた住宅開発の経緯を把握することについて研究を進めています。

■松井恵麻

大阪市立大学大学院文学研究科・後期博士課程の松井恵麻です。私の研究関心は都市とアートの接合点にあります。昨今の新型コロナウイルスの世界的な流行に伴ってアジア系住民への迫害行為が報道され、都市における「不寛容さ」が露わになりつつあります。こうした「不寛容さ」のみならず、時として現代アートは都市の「葛藤」を表現の拠り所にしてきました。しかし日本における同様のアートの実践は必ずしも「葛藤」を表明するだけでなく、それらを取りなし、都市の文脈を新たな側面から書き換えるように働く場合もあります。もちろんそれは喜ばしい都市とアートの関係性である一方で、都市の文脈に断絶や忘却をもたらす可能性もまた否定はできません。そうしたアートの実践や表現から日本の都市社会構造をいかに逆照射することができるでしょうか。私の研究では、芸術理論と地理学的な空間論を架橋すると共に、「公共性」を一つのキーワードに都市とアートの関係性を探っていきます。

■楊慧敏

同志社大学大学院社会学研究科の博士課程 4 年の楊慧敏と申します。私は、高齢者福祉、とりわけ介護保険に関心をもって研究をしております。これまでは、介護保険制度を試行している中国の 15 地域の政策と施行状況に焦点を当てて、現状の把握と課題の検討をしてまいりました。しかし、15 地域の介護保険制度はバラエティ豊かなもので、どの地域のどのような介護保険制度が中国において広範囲に構築・施行可能であるかがまだ明確になっていないという課題が残されています。その課題を克服するには、これまでの議論を踏まえて 15 地域の介護保険制度の類型化を行い、分析した上で中国の介護保険制度の枠組みを提起します。さらに、実証調査を通してその枠組みの適応性を検証します。最後に、理論的・実証的議論を前提として中国の介護保険制度の全体像を明確にいたします。加えて、これまでの研究内容は日本と中国の介護保険制度に止まっておりましたが、今後は韓国や台湾等の東アジア諸国（地域）を視野に入れて研究を展開していきたいと考えております。

■松田紀美

子どもの頃からホームレスの方を見かけるたびに、日本では憲法 25 条において「すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とされているのに、なぜ国は助けてあげないのだろう？という疑問をもっていました。そしてそれがきっかけとなり、日本の貧困問題に関心をもつようになりました。現在は貧困率が高く、母親が家計・家事・子育てを 1 人で担わなければならない母子世帯を対象に研究を行っています。具体的には食生活の実態や、生活・子育ての負担軽減方法について、データ分析を行ったり、当事者から話を聞いたり、母子世帯の親子を支援する団体や子ども食堂でボランティアを行ったりしながら研究を進めています。研究を通して、母子世帯をはじめ困難を抱える人々の生活に少しでも良い影響を与えられるように努力していきます。

Urban Research Plaza dedicates itself to educate young researchers, through the recruitment of Special Researchers on an international scale, with the aim of supporting autonomous research activities with international standard. Currently, four young researchers are enrolled in this program.

都市創造性コラム 10　認知症予防と処理能力向上

Column for urban Creativity 10

Development of recipes and production methods for beverages utilizing various tea types, Gyokuro, Tencha (Matcha) and hops for craft beers: preventing dementia and improving learning capabilities

今年度の共同研究テーマ「生物多様性と文化コミュニケーションを組み込んだ都市生態学の新展開」と一つとして、「玉露・碾茶（抹茶）・ホップを活用したアルコール飲料・ノンアルコール飲料のレシピ・生産方法の開発：認知症予防と（計算）処理能力向上などの機能性を高める」を予定している。近年、茶葉の需要が低下傾向にあり、新型コロナウイルスによって一層の下落が見込まれるが、茶の「機能性」を高めるための知見を組み込んだ「玉露ビール」を開発することにより、茶やホップの新たな可能性を拓こうという試みである[*1]。

本研究における「機能性」については、ホップの苦み成分であるイソアルファ酸による認知症予防（キリンビール健康技術研究所の阿野泰久氏の成果）と、玉露のテアニンによるリラックス効果や処理能力の向上（京都府茶業研究所の原口健司氏の成果）とのバランス[*2]が重要なカギとなるが、こうした効果を計測するシステムを構築することが求められる。検討すべき点として、テアニンとカフェインのバランス、苦み・渋み・うまみのバランス、とりわけノンアルコール飲料では淡白になりがちとなることが多く、どのように「うまみ」を強化するかが課題となる。

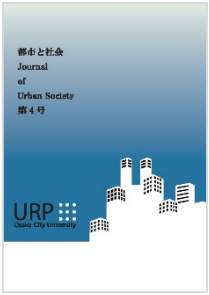
茶ビールのこれまでの例として、京都ビアラボ社（京都市）による「煎茶ペールエール」・「ほうじ茶スタウト」・「かぶせ茶ホワイトエール」の３種類、八女市が運営する健康増進施設『べんがら村』内に設置されている醸造部門『八女ブルワリー』による「ブライト・スター・ピルスナー」・「深蒸し IPA」の２種類がみられる。

「玉露ビール」のスタイルについては、2016 年に発売され始めた「無濾過」のヘイジーIPA（あるいはニューイングランドスタイル IPA ともいわれる）が有望である。この特徴は非常に華やかなホップの香りとジューシーな味わい、そしてオレンジジュースのような濁りのある外観であろう。このスタイルで玉露や碾茶（抹茶）によるビールをいかに作るかは、構成要素である「水」・「麦芽」・「ホップ」・「酵母」のそれぞれについての理解と４つの要素の関係性（文化編集のあり方）如何であろう（次号に続く）。

■岡野浩（URP 教授、経営学研究科併任教授）

*1 クラフトビールについては 2017 年に本学理学部附属植物園と共同で開催した「2017 年大阪市立大学国際シンポジウム」（公益社団法人日本植物園協会・公益社団法人日本 WHO 協会・大阪市立自然史博物館との共催）での分科会で取り上げている（『URP 研究レポートシリーズ』No.43[2018]参照）。
*2「苦み」の成分であるカフェイン、「渋み」の成分であるカテキン類、「甘み・旨み」の成分であるテアニンとのバランスが求められる。

The demand for tea leaves is on the decline. A further decline is expected due to a new coronavirus. We want to open up new possibilities for tea and hops by developing a gyokuro and Tencha beer that incorporates knowledge to enhance the "functionality" of tea. The key to this study is the balance between the prevention of dementia by the iso-alphaic acid in hops and the relaxing effect and increased processing capacity by the theanine in gyokuro tea.



URP先端的都市研究ブックレットシリーズ、『都市と社会』の発行

URP Leading-Edge Urban Studies Booklet Series and “Journal of Urban Society”

都市研究プラザではこれまでプラザが蓄積してきた研究やさまざまな資源を、地域や一般社会、全国の研究機関などと共有／協力すべく共同研究事業に取り組み、都市研究における先端的取り組みをスケールアップしていくための連携型拠点として整備をはかっている。このたび、その成果として、先端的都市研究ブックレットシリーズを５冊刊行した（写真はシリーズ 20）。あわせて、学際的な都市研究の成果媒体である紀要『都市と社会』第４号も発刊した。

＊ご関心のある方はご連絡ください。ただし、部数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があることをご了承ください。

URP
Osaka City University 大阪市立大学 | Urban Research Plaza 都市研究プラザ

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138　tel.06-6605-2071
e-mail：office@ur-plaza.osaka-cu.ac.jp
所長 阿部昌樹　副所長 全泓奎 林久善

「都市研究プラザ」は、都市再生へのチャレンジとして大阪市立大学が 2006 年４月に設立した全く新しいタイプの研究教育組織です。「プラザ」という名前が示すように、都市をテーマとする人々が出会い、集まる広場をめざしています。先端的都市研究拠点として、現場や海外での研究・まちづくり活動、さらに、世界第一線級の研究者や政策家と国際的なネットワークを構築しています。

大阪市立大学都市研究プラザ　ニューズレター　第 47 号
編集長（発行責任者）阿部昌樹
副編集長　全泓奎　水内俊雄　岡野浩
編集主幹　鄭栄鎭　波床尚美